

介助用

自走用

NAH-F5 NA-F7

## 取扱説明書

この度は、製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。  
なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。



NAH-F5オプション仕様

目次はP22に掲載しております。

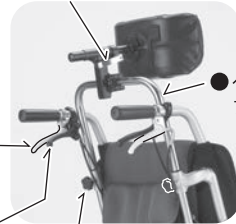
## 各部の名称

【NAH-F5】



出荷時は運送時の安全の関係でフットサポートが外側に回転して収納されている場合があります。フットサポートの戻し方につきましては、P7をご覧ください。

●ヘッドサポート前後位置調整用カムレバー



●ヘッドサポートフレーム

●ティルトレバー (黒いレバー)

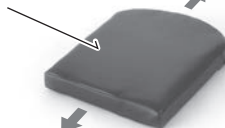
●ヘッドサポート固定用ノブボルト

【NA-F7】



●座面用クッション

座面奥側



車いす前側



はじめに ご確認ください



乗越え可能段差  
12cm以下



注意

NAH-F5、NA-F7の乗越え可能段差は12cm以下です。12cm超の段差を越えようとする、メカニカルロックが段差に当たり、製品が破損するおそれがあります。

12cm超の段差を無理に超えようとしないようにしてください。

※フットサポート・シート間距離の設定や、乗車者及び介助者の身体状況によっては、12cm以下の段差でも超えられない場合があります。無理な段差越えはしないよう、気をつけてご使用ください。

## ヘッドサポートフレームの外しかた・取付けた・高さ調整のしかた



### 外しかた

ヘッドサポートフレームを固定している、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトを緩めると、ヘッドサポートフレームを上に取り外すことができます。

### 取付けた

ヘッドサポートフレームを左右のヘッドサポート固定用ノブボルトがついているパイプに上から差し込み、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトをしっかりと締め、固定してください。（しっかりと固定され、ヘッドサポートフレームを引き上げても抜けないことを確認してください。）

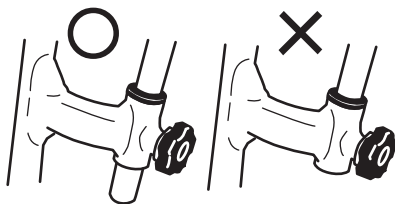
### 高さ調整のしかた

ヘッドサポートフレームを固定している、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトを緩めると、ヘッドサポートフレームの高さを上下に調整することができます。調整後は、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトをしっかりと締め、固定してください。（しっかりと固定され、ヘッドサポートフレームを引き上げても抜けないことを確認してください。）



注意  
警告

ヘッドサポートフレームが、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトがついているパイプの下から出ている状態で製品を使用してください。ヘッドサポートフレームが右図のパイプの下から出ていない状態で使用すると、製品の破損や事故につながるおそれがあります。



## 車いすの拡げかた

- 1** 手押しハンドルを持って軽く左右に拡げてください。



- 2** 片方の手押しハンドルを持ち上げるように反対側の座面下のパイプ部を下方へ押し下げます。

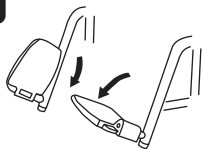


注意



押し下げる際、座面パイプより下に手や指を入れないでください。危険です。

**3**



フットサポートプレート  
を下方へ回転させるよう  
にセットします。使用者  
が車いすに座ってから行  
うのが一般的です。

**4**



ヘッドサポートをフレームを  
取付けます。（手順はP 2  
を参照してください。）  
※しっかりと固定され、ヘッ  
ドサポートフレームを引き  
上げても抜けないことを確  
認してください。

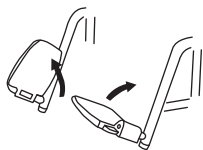
## 車いすの折りたたみかた

**1**



ヘッドサポートフレームを  
外します。  
（手順はP 2を参照してく  
ださい。）

**2**



フットサポートプレート  
を上方へ回転させて収納  
します。

**3**



座面シートを持ち上げます。

**4**



手押しハンドルを  
持って左右から押し  
縮めるように、  
折りたたんでくだ  
さい。

## バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた

バックサポートの折りたたみ動作、固定動作は、ヘッドサポートフレームを本体から外した状態で行います。

(ヘッドサポートフレームの外しかたにつきましてはP2をご覧ください。)

### 折りたたみかた



手押しハンドルを前方に押し、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押しながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。

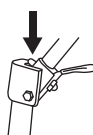
### 固定のしかた



手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすように持ち上げてください。左右のスライドピンが「カチッ」とロックされたことを必ずご確認ください。



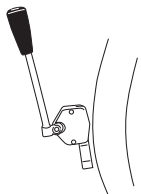
注意  
警告



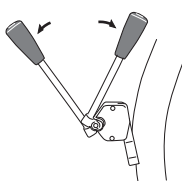
- 矢印の部分に手や指を置かないでください。
- 矢印の部分にバックサポートシートをはさみこまないように注意してください。
- 車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。

## 駐車ブレーキのかけかた

### 解除時



### 駐車



- レバー先端のノブを手で前方に押し、もしくは後方に引くと駐車ブレーキがかかります。中間の位置が解除です。

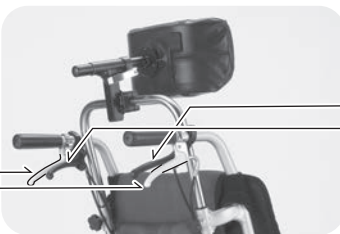


注意  
警告

- ・駐車ブレーキは左右両輪ともしっかりとかけてください。片側だけのブレーキをかけた状態で駐車をしないでください。
- ・しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- ・坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- ・ブレーキレバーに体重をあずけたり、足でレバー操作するなど、レバーに強い力がかかる行為はしないでください。

## ティルト・介助ブレーキの操作方法

●介助ブレーキレバー  
(グレーのレバー)



●ティルトレバー  
(黒いレバー)

### ■ティルトのしかた

左右のティルトレバーを手押しハンドルグリップと一緒に握り後方（もしくは前方）へ倒し、止めたい位置でレバーを離せば止まります。（ティルト操作は、介助者が胸や肩、腕で車いすをしっかりと支えながら行ってください。）



後傾ティルト

(NAH-F 5 : 最大30°)  
(NA-F 7 : 最大18°)



前傾ティルト

(NAH-F 5 : 最大-4°)  
(NA-F 7 : 最大-5°)

※前傾ティルトはテーブル・机での食事や作業時などに有効で、一時的に使用します。



注意  
警告

ティルト動作は必ず  
駐車ブレーキをかけて  
行ってください。

前傾ティルトで使用の  
際は、乗車者が車いす  
から倒れて落下したり、  
前にずれ落ちたりしな  
いように十分注意して  
ください。

### ■介助ブレーキ（制動ブレーキ）のかけかた

左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。

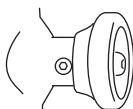
## アームサポート高の調整のしかた



調整用ボタン

- アームサポートを持ち、調整用ボタンを引いて、ロックを解除し、アームサポートの高さをゆっくりと上下させ、高さを調整します。
- 調整用ボタンがロックされれば調整は完了です。

調整用ボタン



ロック解除状態



ロック状態

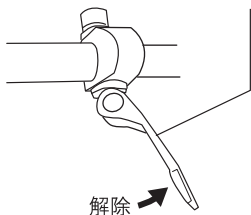


注意

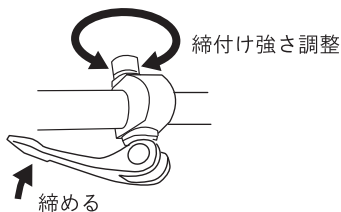
- ・手指等を挟まないように注意してください。
- ・アームサポートが調整用ボタンでしっかりと固定されていることを確認してください。

## ヘッドサポート前後位置の調整のしかた

ヘッドサポート前後位置調整用カムレバー



解除



締める

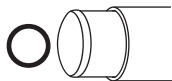
締付け強さ調整

- ヘッドサポート前後位置調整用カムレバーを解除して、任意の前後位置にヘッドサポートを調整します。調整したら、左右のカムレバーを締めてください。（しっかりと固定されたことを確認してください。）締付けの強さはレバーの反対側のネジで調整してください。



注意

ヘッドサポートは、前後位置調整レバーのついているパイプの後端からインナーパイプが出ている位置で使用してください。  
後端からインナーパイプが出ていない状態での使用をすると、製品の破損のおそれがあります。

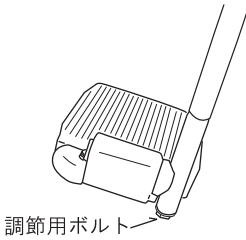


## ヘッドサポートの角度・方向の調節のしかた



- 上図のボルトを4mmの六角レンチで緩めると、ヘッドサポートの左右位置や角度を調整することができます。調整したら、緩めたボルトをしっかりと締めてください。（ヘッドサポートがしっかりと固定されたことを確認してください。）

## フットサポートの調節のしかた

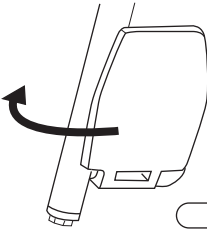


- フットサポート下端の調節用ボルトを13mmのスパナで緩めて、高さを合わせてから、調節用ボルトをしっかり締め付けます。(上下にスライドしにくい場合は、プラスチック製ハンマーなどで、調節用ボルトを下からたたくようにショックをあたえると緩みます。)



注意

- ・調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。
- ・フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまづくことがあります。フットサポートの最下端部で、地面から5cm以上あげてください。
- ・フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。



出荷時はフットサポートを、外側後方に回転して収納してある場合があります。調節用ボルトを緩めて、前方に回転させ、高さを調節してから、調節用ボルトをしっかり閉めて固定してください。

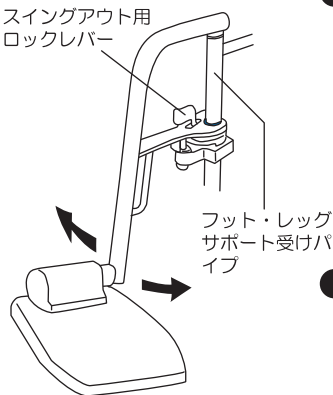
出荷時

## フット・レッグサポートの開き方・着脱のしかた

### 開きかた・はずしかた

※乗車者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

- ①スイングアウト用ロックレバーを外側へ押しながら、フット・レッグサポートを外側に開きます。
- ②フット・レッグサポートを外側へ45°程度回転させると、フット・レッグサポートを上方に引き抜いて外すことができます。



### 取付けかた

- ①フット・レッグサポートを外側に45°程度開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。
- ②フット・レッグサポートを「カチッ」と音がするまで、内側に向けて回転させてください。

## アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた

### 跳ね上げのしかた



アームサポート先端のアームサポート跳ね上げプラグのレバーを後方に倒すと、アームサポートの固定（ロック）を解除することができます。ロックを解除して、アームサポートを上に戻させるようにしてください。



### 戻しかた



戻すときは、アームサポート跳ね上げプラグを握らずに、そのまま「カチッ」というまでアームサポートを押し下げてください。



**注意  
警告**

- ・アームサポートの跳ね上げは必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・アームサポートを跳ね上げた状態で車いすを動かさないでください。
- ・跳ね上げて移乗する際は必ず、アームサポート跳ね上げプラグがバックサポートパイプの前に出ない位置まで跳ね上げてください。
- ・戻すときには、アームサポートと座面の間やジョイント部に、身体や衣服が挟まらないように注意してください。

## 駆動輪の操作のしかた<NA-F7のみ>



- ・乗車者がハンドリムを握り、ハンドリムを前に押ししたり、後ろへ引いたりすることで、前進又は後退します。
- ・走行中にブレーキをかけるには、ハンドリムを握って駆動輪を止めます。



**注意**

タイヤを握って漕ぐと、ブレーキやフレーム、アームサポート等の間で指を挟むことがありますので注意してください。



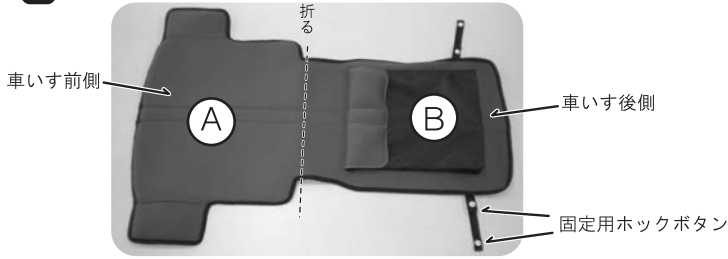
**警告**

座面が前傾している状態、及び、座面を大きく後傾させて前方や足元がしっかりと見えていない状態で自走動作をすると、転倒や落下などの事故につながるおそれがあります。このような状態では絶対に自走動作をしないでください。



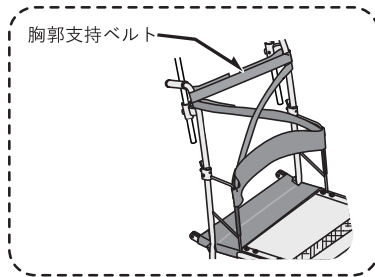
# バックサポートシートの取付かた

1



バックサポートシートを上写真のA面がインナーベルトの前側、B面がインナーベルトの後ろ側になるように、かぶせます。

折った部分がインナーベルト（胸郭支持ベルト）のトップにあたるようにかぶせてください。



2



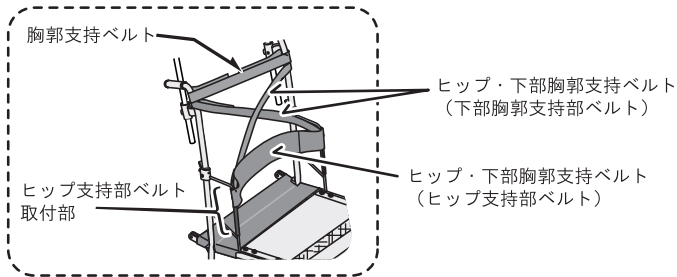
左右のホックボタンのついたベルトを、バックパイプにまわし、ホックボタンでとめて、左右とも固定してください。

取付け時



# バックサポートインナーベルトの基本設定

## 各部名称

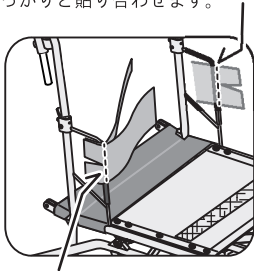


## ヒップ支持部の設定

骨盤支持部の設定は「骨盤を起こす場合」「骨盤が寝ている場合」の2種類あります。ご使用者の姿勢に合わせて選択してください。

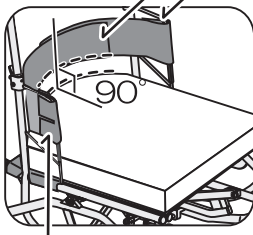
### 骨盤を起こす場合

ヒップ支持部ベルトの上面を、ヒップ支持部ベルト取付部の一番上の部分にあわせて、しっかりと貼り合わせます。



ヒップ支持部ベルトの赤い縫い糸が正面を向くように取付けます。

しっかりと貼り合わせる。

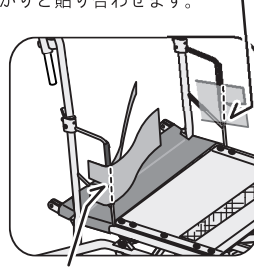


しっかりと貼り合わせる。

座クッション奥側のカーブ形状と、貼り合わせたヒップ支持部のカーブ形状が同じになるように設定します。また、座クッション面に対し、ヒップ支持部ベルト面がほぼ垂直（約90°）になるように設定します。

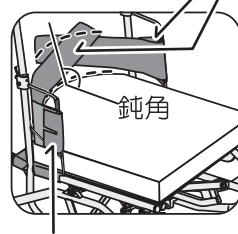
### 骨盤を寝かす場合

ヒップ支持部ベルトの下面を、ヒップ支持部ベルト取付部の一番下の部分にあわせて、しっかりと貼り合わせます。



ヒップ支持部ベルトの赤い縫い糸が正面を向くように取付けます。

しっかりと貼り合わせる。



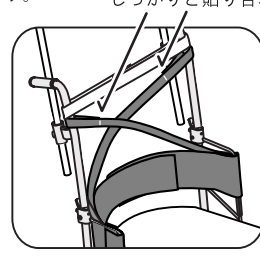
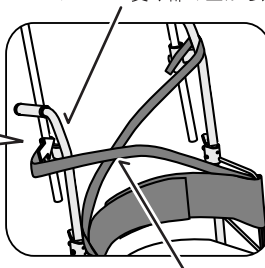
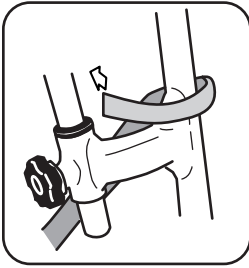
しっかりと貼り合わせる。

座クッション奥側のカーブ形状と、貼り合わせたヒップ支持部のカーブ形状が同じになるように設定します。また、座クッション面に対し、ヒップ支持部ベルト面が鈍角（90° 超）になるように設定します。

## 下部胸郭支持部の設定

下部胸郭支持部ベルトをヘッドサポートフレーム受け部の上から通します。

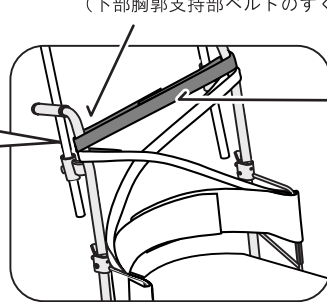
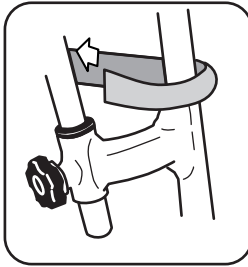
ベルトの先端部をベルト裏面の赤い縫い糸の位置に合わせ、しっかりと貼り合わせます。



ベルトの重なりはどちらが上でも可です。

## 胸郭支持部の設定

胸郭支持ベルトをヘッドサポートフレーム受け部の上から通します。  
(下部胸郭支持部ベルトのすぐ上に取付けます。)



胸郭支持ベルトにたるみがないように張り、ベルト裏側でしっかりと貼り合します。



**注意  
警告**

- ・設定後は、各ベルトが面ファスナーでしっかりと固定され、フレームからはずれないことを確認してください。
- ・インナーベルトはすべてを正しく取付けてください。一部のベルトを省いたり、説明書記載と異なるつけ方をして使用したりしないでください。
- ・ベルトが破れていたり、面ファスナーがしっかりと効かなくなっている場合などは使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



インナーベルトの設定につきましては、専門知識と技術を持った、医師、療法士、福祉用具専門相談員、販売店にご相談ください。

## バックサポートの張り具合の調整のしかた



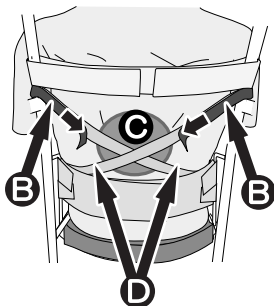
バックサポートシートを装着したまま、バックサポート固定用ホックボタンを外し、バックサポートシートの後ろ側をめくり上げて、インナーベルトを調整します。

### インナーベルトの調整のしかた



説明イラストでは、調整方法を分かりやすくするために、バックサポートシートを省略しています。実際に調整する際は、バックサポートシートを装着し、後ろ側だけをめくり上げた状態で調整をしてください。

#### 1 下部胸郭支持部ベルトを調整します。

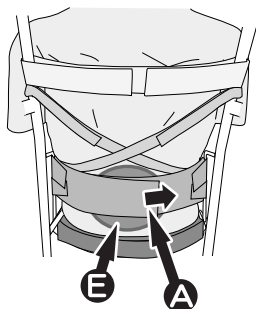


Bのベルトを引張り、C部の隙間をなくします。

C部の隙間がなくなった状態から、さらにBのベルトを1～2 cm引張ります。

BのベルトをDのベルトにしっかりと貼り合わせて固定します。

#### 2 ヒップ支持部ベルトを調整します。



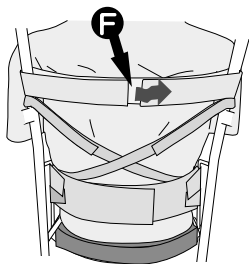
お尻とベルトAの間に隙間がある場合。

E部の隙間がなくなるように、Aのベルトの張りを調整します。ベルトの合わせ面を1 cm程度きつめに張り、しっかりと貼り合わせて固定します。

お尻とベルトAの間に隙間がない場合は調整は不要です。

※体が後ろに傾きすぎている場合は、Aのベルトをゆるめ、お尻の位置を後ろにずらすことで、座る角度を変更することができます。

### 3 胸郭支持ベルトを調整します。



ベルトの当たりが強い場合。



Fのベルトを1～2cmゆるめて、しっかりと貼り合わせて固定します。

※ゆるめすぎると体幹がくずれやすくなりますのでご注意ください。

ベルトの当たりが気にならない場合は調整は不要です。

### 4 全てのインナーベルトが面ファスナーでしっかりと固定されていることを確認し、めくり上げていたバックサポートシートを元にもどします。



バックサポートシート左右のホックボタンのついたベルトを、バックパイプにまわし、ホックボタンでとめて、左右とも固定してください。



#### 注意 警告

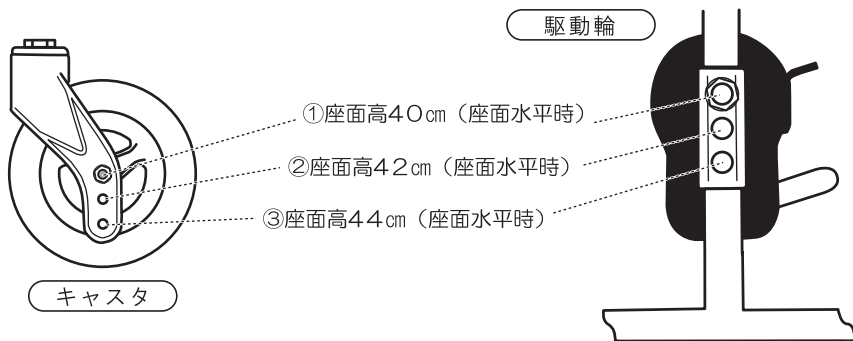
- ・インナーベルトの調整は、必ず、手順通りに行ってください。一度に全てのベルトの面ファスナーをはずすと、乗車者が落下しケガをするおそれがあります。
- ・バックサポートの張り調整は、必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・ベルトが破れていたり、面ファスナーがしっかりと効かなくなっている場合などは使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



バックサポートの張り具合の調整につきましては、専門知識と技術を持った、医師、療法士、福祉用具専門相談員、販売店にご相談ください。

## NA-F7の座面高の調節について

NA-F7は、キャスタ車輪を止めている車軸ボルトの穴位置と駆動輪を止めている車軸ボルトを取付けている穴の位置を変更することで座面の高さを変更することができます。



キャスタ車輪の車軸と駆動輪の車軸は①・②・③のうちの同じ番号の位置に設定してください。  
※座面高を変更する場合は、駐車ブレーキの調節も必要となります。（下記参照）

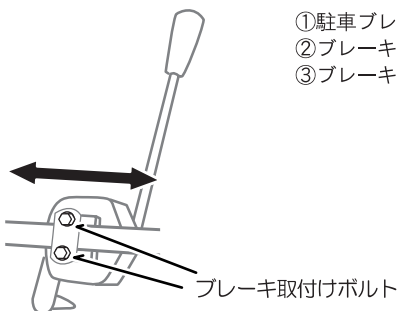


キャスタと駆動輪の車軸を①・②・③の番号が異なる組合わせで設定しないでください。正常な走行ができなくなり危険です。



座面高の変更につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

## 駐車ブレーキの調節方法（座面高を変更した場合は必ず調節してください）



- ①駐車ブレーキのブレーキ取付けボルトを緩めます。
- ②ブレーキがしっかりかかる位置までブレーキ本体をずらします。
- ③ブレーキ取付けボルトをしっかり締めて固定し、完了です。



使用前には、駐車ブレーキがしっかり効くかどうか、駐車ブレーキがブレーキ取付けボルトとブレーキ取付けプレートでしっかり固定されているかどうか、必ずご確認ください。



ブレーキの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

## 使用前点検（必ず行ってください）

- 介助ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
- 駐車ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
- ティルト・介助ブレーキのワイヤーの張り具合が適当かどうか点検し、正常に動作するかどうかご確認ください。
- ヘッドサポートフレーム及びヘッドサポートがしっかりと固定されているかどうかご確認ください。
- ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかどうかご確認ください。
- シート・ベルトに亀裂や破れがないかどうかご確認ください。
- 駆動輪・主輪タイヤの空気圧は適切かどうかご確認ください。（不足している場合は補充してください）  
【適正空気圧】65PSI 450kPa 4.5BAR
- 駆動輪・主輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、チューブがパンクしていないかどうかご確認ください。
- 車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかどうかご確認ください。
- 前輪キャスタ輪及びキャスタフォークに変形、ひび割れ等がないかどうかご確認ください。
- 前輪キャスタが緩んでいないか、抜け落ちていないかどうかご確認ください。
- 各部パーツの変形、破損がないかどうかご確認ください。

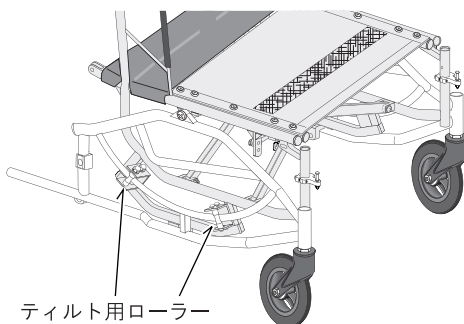


警告

製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調整をご依頼ください。

## メンテナンス・保管方法

- ボルトの緩み、フレームのガタ、タイヤの空気圧の減少など目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、日常的に行ってください。
- 各部のメンテナンス（調節・補修・修理・部品交換等）はお買い上げの販売店にご依頼ください。
- シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けて下さい。
- 屋内の湿気が少ない場所に保管してください。雨に濡れたり、湿気の高いところには保管しないでください。
- 下図ティルト用ローラー部にはメンテナンスとして、グリスアップを実施してください。特に、ティルトの動作がスムーズでない場合には、使用を中止し、すぐにグリスアップを実施してください。





## 注意・警告

- 各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながる場合があります。定期的に取り扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
- 使用者の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- からだに合わない状態での使用はしないでください。
- ヘッドサポートフレーム及びヘッドサポートを取り付けない状態での使用はしないでください。
- シートの張り調整が不適切な状態での使用はしないでください。
- ティルト動作は、必ず駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
- 各部の調整・調節を行うときは、必ず駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
- 走行時には地面に凹凸や障害物がないか十分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
- 倒れかかるような座り方や、身を乗り出すような座り方はしないでください。バランスをくずして転倒することがあります。
- ティルトレバーを握りながらの走行はしないでください。
- 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- エスカレーター及び動く歩道での使用はしないでください。転倒による事故のおそれがあります。
- 公共交通機関で使用の際は、係員の指示に従い、安全に搭乗してください。
- 踏切りを横断の際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。
- 手押しハンドルや各部フレームなどに手荷物等を掛けしないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒する恐れがあります。
- ヘッドサポートフレームとヘッドサポートはしっかりと固定して使用してください。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。（アームサポートやフットサポート、手押しハンドル、シート等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながる恐れがあります。）
- 坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
- 子供に操作をさせないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。（使用中を中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。）
- 乗車者・介助者とも、車いす使用時には靴をはいてください。はだしで車いすを使用しないでください。思わぬケガのおそれがあります。
- 体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
- 周辺に小さなお子様がいたときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
- 水にぬれた場合、そのままにしておく製品に錆びやカビが出ることがあります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えることがあります。
- 改造や分解はしないでください。
- 当取扱説明書内に記載の寸法や重量の値には、製造の都合上、多少の誤差がありますのでご了承ください。
- 製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。



## NAH-F 5仕様

- 全長：109cm（95cm） ●全幅：56cm（33cm） ●全高：102～127cm（66cm）
- 臀部サポート有効幅：36cm ●シート奥行：40cm ●座面高：40cm（座面水平時）
- バックサポート高：48cm ●アームサポート高；24・26・28・30cm
- ヘッドサポート高：65～90cm ●キャスタ：6インチPU ●主輪：16インチ
- ティルト角度：-4～30° ●座クッション厚：5cm
- 重量：19.5kg【座クッション含む】 ●耐荷重：100kg（積載物を含む）

※上記はシート幅40cm仕様のスペックです。（ ）は折りたたみ時寸法。

## NA-F 7仕様

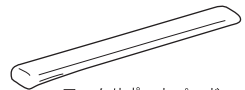
- 全長：103cm（103cm） ●全幅：62cm（39cm）
- 全高：102～134cm（66～70cm） ●臀部サポート有効幅：36cm
- シート奥行：40cm ●座面高：40・42・44cm（座面水平時）
- バックサポート高：48cm ●アームサポート高；24・26・28・30cm
- ヘッドサポート高：65～90cm ●キャスタ：6インチPU ●駆動輪：20インチ
- ティルト角度：-5～18° ●座クッション厚：5cm
- 重量：20.9kg【座クッション含む】 ●耐荷重：100kg（積載物を含む）

※上記はシート幅40cm仕様のスペックです。（ ）は折りたたみ時寸法。



### ウレタン素材には **寿命** があります。

- クッション性に優れているウレタン素材は、使用頻度にかかわらず経年変化を起こし、割れ、ヒビ、崩れを起こし、破損するおそれがあります。
- 特に通気の悪い場所での長期間の保管は避けてください。
- 割れやヒビ、崩れ等の症状が発生した場合は使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



アームサポートパッド

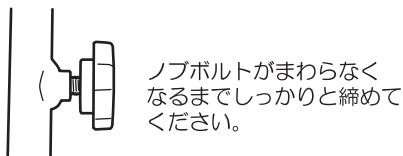
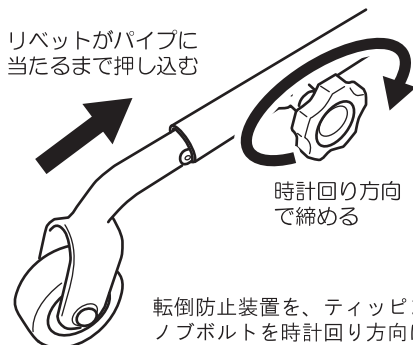
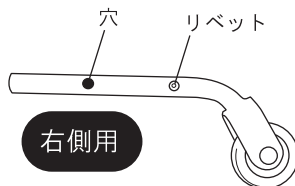
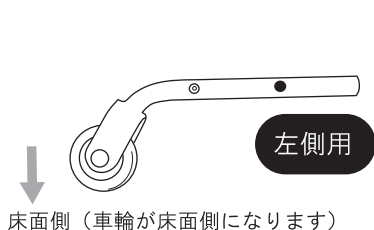
など

# NAH-F5

## オプション 転倒防止装置 取扱説明

### ■ 取付けかた

転倒防止装置は右側用と左側用があります。パイプに穴があいていて、リベットが見えている側が車いすの内側を向きます。



転倒防止装置を、ティッピングレバーにしっかりと差し込んでノブボルトを時計回り方向に締めて固定します。右側用・左側用とも確実に取付けてください。



## NAH-F5 オプション 転倒防止装置 使用上の注意

- 転倒防止バーをティッピングレバーとして使用しないでください。（転倒防止バーを足で踏まないでください。）
- 転倒防止バーを持って車いすを持ち上げないでください。
- 使用前には、転倒防止装置が左右とも確実に固定されていて、抜けたり回ったりしないことを確認してください。
- 転倒防止装置を使用の際は、かならず左右両方に転倒防止装置を設置してください。片側だけを設置して使用しないでください。
- 製品に異常がある場合は使用を中止し、販売店に点検・修理・交換をご依頼ください。

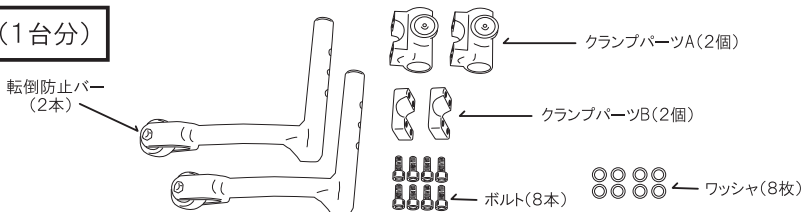
# NA-F7

## オプション 転倒防止装置 取扱説明



転倒防止装置の取付けにつきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談下さい。

### ■ パーツ(1台分)



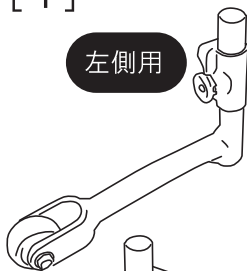
### ■ 取付けかた



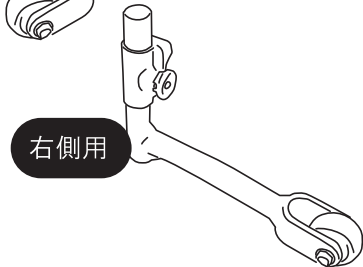
取付け作業は、車いすの左右の駐車ブレーキをかけて行ってください。作業中に車輪が回転すると、スポークで手指にケガをするおそれがあります。

### [ 1 ]

左側用



右側用



クランプパーツAのボタンを引きながら、転倒防止バーをクランプパーツAに差込みます。  
クランプパーツAのボタンから手を離し、ボタンの先端のピンが、下図の車いすの前座高に該当する穴にしっかりとハマるようにしてください。

ボタン先端のピンで固定する穴の位置

NA-F7の前座高が44cmのとき

NA-F7の前座高が42cmのとき

NA-F7の前座高が40cmのとき

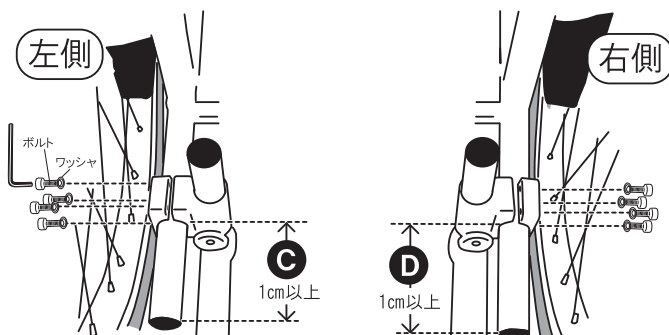
## [2]

車いすの左右のティッピングレバーに、下図の通りに、クランプパーツA・Bを取付けます。  
(クランプパーツAが車いす内側・Bが外側になるように取付けます。)

まず、クランプパーツAと転倒防止バーの位置を、車いすのティッピングレバーに仮に合わせてみて、車いすのフロント部を持ち上げ、フロントアップ時に転倒防止装置が地面に接地し、車いすが後方転倒しないようになる取付け位置を確認してください。

取付け位置が決まったら、付属のボルトを5mmの六角レンチで締めて、クランプパーツをしっかり固定します。ボルトにはワッシャを通してください。

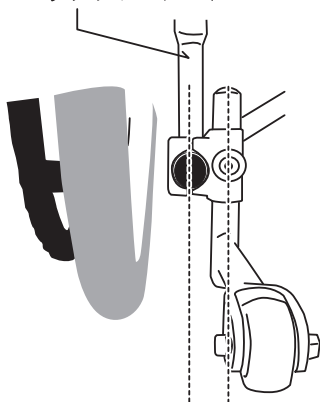
※下図のCとDの寸法は必ず同一になるようにしてください。また、下図の寸法の条件は必ずまもってください。



**!** **C**と**D**の寸法は必ず同じになるように取付けてください。  
また、上記の寸法条件を必ずまもってください。

## [3] 最終確認

バックサポートパイプ



●車いす後方から目視で、車いすのバックサポートパイプと転倒防止バーが平行になっていることを確認してください(左図参照)。左右とも確認してください。  
(平行になっていない場合は、[2]の手順で、再度クランプをつけなおしてください。)

●クランプがボルトでしっかりと固定されていて動かないことと、転倒防止バーが、キックルの前座高に応じた正しい穴で確実にロック固定されていることを確認してください。

●乗車前に、車いすのフロント部を持ち上げてみて、フロントアップ時に転倒防止装置が地面に接地し、車いすが後方転倒しないことを必ず確認してください。転倒防止装置が接地せずに、後方転倒してしまうような場合は、[2]の手順で再度、クランプの位置を変更し、つけなおしてください。



## NA-F7 オプション 転倒防止装置 使用上の注意

- 転倒防止バーをティッピングレバーとして使用しないでください。（転倒防止バーを足で踏まないでください。）
- 転倒防止バーを持って車いすを持ち上げないでください。
- 使用前には、クランプパーツが正しい位置にしっかりと固定されていて、動かないことを確認してください。＜クランプパーツの正しい位置については、前頁（P20）を参照してください。＞
- 転倒防止バーがクランプパーツのボタン先端のピンでしっかりと固定されて、はずれないことを確認してください。
- 転倒防止バーは正しい穴位置で固定してください。＜正しい穴位置につきましては、P19取付け方手順 [1] を参照してください。＞
- 転倒防止装置を使用の際は、かならず左右両方の転倒防止装置を後方に引き出してください。片側だけを引き出して使用しないでください。
- 製品に異常がある場合は使用を中止し、販売店に点検・修理・交換をご依頼ください。
- 車いす本体の座面高を変更した場合は、必ず、P20取付け方[3]の最終確認を再実施してください。

---

# 目次

---

P 1	．．．	各部の名称
P 2	．．．	はじめに ご確認ください ヘッドサポートフレームの外しかた・取付けかた・高さ調整のしかた
P 3	．．．	車いすの広げかた 車いすの折りたたみかた
P 4	．．．	バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた 駐車ブレーキのかけかた
P 5	．．．	ティルト・介助ブレーキの操作方法 アームサポート高の調整のしかた
P 6	．．．	ヘッドサポート前後位置の調節のしかた ヘッドサポートの角度・方向の調節のしかた
P 7	．．．	フットサポートの調節のしかた フット・レッグサポートの開き方・着脱のしかた
P 8	．．．	アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた 駆動輪の操作のしかた<NA-F 7のみ>
P 9	．．．	バックサポートシートの取付けかた
P 10	．．．	バックサポートインナーベルトの基本設定
P 12	．．．	バックサポートの張り具合の調整のしかた
P 14	．．．	NA-F 7の座面高の調節について 駐車ブレーキの調節方法（座面高を変更した場合は必ず調節してください）
P 15	．．．	使用前点検（必ず行ってください） メンテナンス・保管方法
P 16	．．．	注意・警告
P 17	．．．	NAH-F 5仕様 NA-F 7仕様 ウレタン素材には寿命があります
P 18	．．．	NAH-F 5オプション転倒防止装置取扱説明
P 19	．．．	NA-F 7オプション転倒防止装置取扱説明
P 22	．．．	目次
P 23	．．．	保証規定・品質保証書

## 保証規定

### I. 保証の範囲

1. 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
2. 保証期間はお買い上げ後1年間です。
3. 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
  - (a) 取扱い過誤による故障。
  - (b) 製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含まれます。
  - (c) 天災、地変等による故障ならびに損傷。
  - (d) 消耗部品、タイヤなど。
  - (e) 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
  - (f) 保証書のご提示がない場合。
4. 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
5. この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

### II. サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

### III. ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

## 品質保証書

本商品については上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「1年間」無償にて修理致します。

機種			
お客さま	ご住所	〒	
	(フリガナ) 氏名	TEL	
お買い上げ日	月	日	有効年月日 日まで
販売店	<b>見本</b> (印)		
総販売元			
製造元	<b>日進医療器株式会社</b> 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35-2 TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787		

# 日進医療器株式会社

本 社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35番地の2  
TEL<0568>21-0635(代) FAX<0568>23-2787  
東京営業所 〒112-0002 東京都文京区小石川 1-21-14  
TEL<03>3814-0923(代) FAX<03>3814-4644  
大阪営業所 〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里 6-16-10  
TEL<06>6323-8265(代) FAX<06>6326-2554  
九州営業所 〒812-0876 福岡県福岡市博多区昭南町2丁目3-8  
TEL<092>513-5036(代) FAX<092>513-5038

## 製品の廃棄方法

ご不用となった製品を処分される場合の廃棄方法につきましては、  
お住まいの自治体のルールに従ってください。

TRZ-017-05